

浄水場見学 4年生のすてきなポイント

18日（木）に高蔵寺浄水場を訪れました。社会科の学習の一環です。いわゆる「社会科見学」です。

見学中にすてきだなと思ったポイントのうち、今回は2つ紹介します。

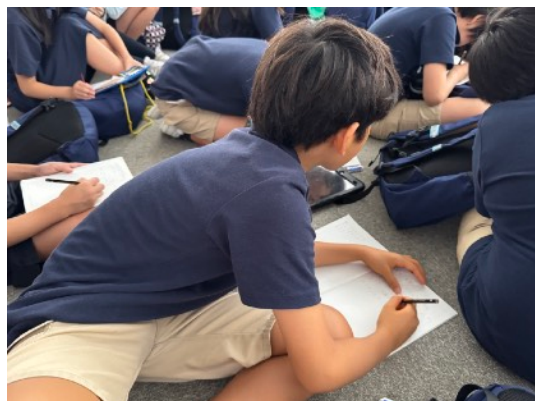
すてきポイント①は聞いたことをメモしておく習慣が身についてきていることです。探究でも「記憶より記録」とよく言われます。この見学では指示などなくても、記録しようとする子が多くいました。

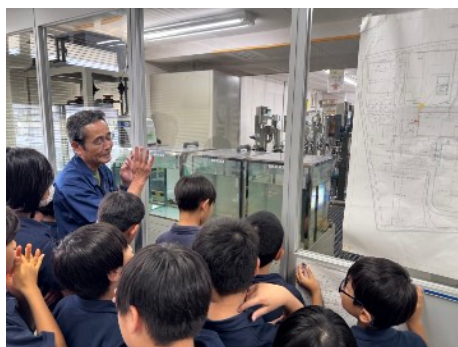
メモの取り方もそれぞれですね。鉛筆でメモした方が早いと思う子はノートや紙に鉛筆を走らせます。

iPadに入力した方が早いと思う子はメモアプリにメモをしていました。

記録としての機能が果たせればよいので、そこはそれぞれでよいと思っています。前のめりな姿勢が話を聞こうとする姿勢の表れですね。そこもすてきでした。

すてきポイント②は質問の豊かさです。子どもの発想から生まれる質問には、こちらが「なるほど～、確かに気になる」と思うものがいろいろとありました。





「川やダムから取り入れた水はどれくらいの時間で飲み水になるんですか」

「1日にどれくらいの水を作るんですか」

「川から水を取り入れる時に、魚って入ってこないんですか」

「苛性ソーダって、ジュースのソーダと何が違うんですか」

「バイキンがないって、どうやって確かめるんですか」

「愛知の水はトップクラスってインターネットで見ただけですけど、本当ですか。それって、なんでですか」 などなど



社会科の学習のねらいに準じた質問もたくさんあります。それらに加えて、「魚って入ってこないのか」「苛性ソーダとソーダは何が違うのか」という質問。これらは新しい視点を与えてくれる質問です。

「なるほどなあ・・・」と、うなりながら聞いていました。たとえば、魚の質問。子どもたちにとって、川は生き物がたくさん住んでいる場所という認識があるわけです。経験則です。そこから生まれる素朴で、そしてすてきな「？」。私もいろんなことに気付かされ、学びを得ることができました。

